

第 13 回 奈井江町まちづくり町民委員会 議事録（要旨）

【日 時】 平成 30 年 9 月 28 日（金） 午後 6 時 00 分～午後 7 時 53 分
 【場 所】 役場 3 階 大会議室
 【出席者】 委員～10 名（欠席 5 名） 町～7 名

委 員	太田裕治	○	中村尚子	○	村井啓介	○	藤 由 均	○	橋本ミエ	○
	萬 由美子	×	長屋高史	×	大澤耕一	×	梅本てる子	○	北 準一	○
	三原 新	○	鈴木雅之	×	佐藤 唯	○	田口友子	×	福塚智美	○
町	北町長、相澤副町長、 事務局：碓井参事、井上主幹、谷口係長、吉田主事、佐々木主事									

1. 開会 碓井参事

皆様大変お忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。

本日、欠席のご報告頂いている方も若干遅れてくるというような連絡も頂いておりますが、定刻となりましたので町民委員会進めてまいりたいと思います。

最初に、太田委員長よりご挨拶を頂いて、そのあと、進行も併せてお願いしたいと思いますのでよろしくお願い致します。

2. 委員長あいさつ

皆さんこんばんは。お忙しところお集まりいただきましてありがとうございます。

9 月 6 日に発生しました胆振沖の地震について、私たちもある部分では被災者でもありますけど、41 人の犠牲者がでており、心からご冥福をお祈りするところでございます。

同時に、私たちもブラックアウトという経験をしまして、北海道は本来、特に奈井江のあたりは災害が少ない、地震が少ない地域だと思っていたところが思わぬ災害で改めて災害について認識させられました。

この間、町の皆さんは、非常にご苦労なされたことも心から敬意を表したいと思います。

この地震において、今、頑張れ北海道という言葉があるようにですね、私たちの災害に対する取り組みの考え方も変わりましたし、行動もいろんな意味で考えさせられる年になったのかなと考えています。

今日は、町の人口動向などについて、ちょっと幅広い意見を賜ってですね、今後の奈井江町の将来に向けて少しミッションと言いますか方向性が見いだせればなと思っておりますので、よろしくお願い致します。

それではさっそくですが町長より、町政運営に関する動向についてお願いしたいと思います。

います。

3. 町長 あいさつ（資料1 町政運営等に関する主な動向を兼ねて）

皆さんおばんでございます。

町政の推進にご協力頂きましてありがとうございます。また、本日はお仕事お疲れのところお集まりいただき重ねてお礼を申しするところでございます。

初めに奈井江町における災害について説明をいたしますが、今月の5日の「台風 21号」では、トマト、そばなどを農業用ハウスに被害が発生しました。翌6日には北海道胆振東部地震が発生し、北海道で初めて最大震度7を記録し、本町でも震度4を観測したものの家屋や人的被害はありませんでした。

しかし、地震直後に北海道全域で停電が発生し、みなクルを「自主避難所」として開設し、炊き出しや携帯電話の充電スポットを設置するなどの対応をいたしました。

また、停電の影響もあったところに敬老会が夏川りみコンサートを延期しました。

道南の一部の地域では甚大な被害が発生しており、先日、本町からの被災地に職員を派遣し、支援を行うとともに、本日、私も厚真町を訪問し、献花を行うとともに、宮坂町長にお見舞いと激励を行ってまいりました。

宮坂町長さんから「皆さんからの支援で物資的には充足しましたが、小さな子どもも含めてショックを受けており、精神的な支援、立ち直りにこれから多くの時間を要すると思っている中、こうして北町長が厚真まで来てくれたことが本当にうれしい」と涙を流しながら話してくれました。

宮崎町長の言葉、そして町の様子を拝見し、私も本当に心が痛みました。

改めて被災された方々のご冥福とお見舞いを申し上げ1日も早い復興・復旧を心からお祈り申し上げます。

それでは前回委員会以降の町政運営の主な点について申し上げたいと思います。

8月24日～29日には、友好都市ハウスヤルビ町よりアロボリ議長を団長に大人4名、高校生2名が来町されました。

今回は、奈井江町が取り組む保健・医療・福祉・教育について研修を行ったほか、議会との意見交換、ライスターミナル、企業への視察など、奈井江町の現状を見ていただくとともに、奈井江商業高校で茶道や書道など、日本の文化についても体験していただきました。

高校生のお2人には、昨年フィンランドに訪問したお子さんのお宅などにホームステイをしながら町内の子どもたちとの交流などを行いました。

今回の国際交流でも、お互いの意見交換の中で多くの事を学び合い、交流を通して両町の関係がより一層深まったと感じたところでございます。

次に、農作物の状況について申し上げたいと思います。

水稻は今月11日から稲刈りが始まり、ライスターミナルでも集荷作業のピークを迎

えておりますが、農作物は全体に 6 月中旬からの定温・日照不足の影響により残念ながら平年作を望むのは非常に厳しい状況だと聞いております。

8 月 6 日から 31 日まで開催いたしました、町政懇談会では、各地区で町民の皆さん方と、町政運営やまちづくりに関する大変多くの意見を頂きました。

今後、意見を整理し、できるだけ町政に反映して参りたいと考えております。

交通安全では皆さんに普段から高い意識をもってご協力を頂き改めてお礼を申し上げます。

一昨日、文化ホールで開催した 1 市 3 町「交通事故セーフティー運動」交通安全大会において、先月 27 日に達成した「交通事故死ゼロ 1000 日」の偉業に対し、佐々木空知総合振興局長さんから表彰の伝達を受けたところでございます。

今後の皆さんのご協力を頂きながら 1500 日を目指し、引き続き交通安全運動に努めてまいります。

次に、町民の皆さんも、是非、ご参加いただきたく申し上げたところでございますが、10 月 19 日 18 時から文化ホールにて北海道住電精密株式会社 牛島専務取締役を講師に「小さな町で展開されていく、世界を視野に入れた大きな取り組みが実践される企業戦略について」テーマにご講演をいただく予定をしております。

皆さん、是非、ご参加するようお願い申し上げます。

さて、第 4 期まちづくり町民委員会皆さんにつきましては、今月をもって任期満了となり、このメンバーでの委員会が最後となります。

第 6 期まちづくり計画の検証や地方創生に係る総合戦略策定など大変貴重な多くのご意見を頂き、敬意と感謝を申し上げます。

最後になりますが、北海道新聞でも報道されましたように、私はこの 12 月を迎える任期満了をもって、町長を退任することを決断いたしました。

12 月 6 日の任期満了まで、全力で町政に取り組んでまいります。8 期 32 年間、皆さんのご協力を得て、本日ように町民との対話を重ね、町政を進めることができましたことを改めて深く感謝申し上げます。これをもってご挨拶といたしますが、長い間、大変ありがとうございました。

4. 議題

(委員長)

町長ありがとうございました。今、町長に町政運営に関する内容に、何かご質問等ありましたら、承りたいと思いますがいかがでしょうか？ございませんか？

なければ、それでは町長ご苦労様でした。

それでは、議題に入りたいと思います。非常に広い範囲ですが、総合的な奈井江の在り方について説明させていただいて議論に入って参りたいと思いますが、今日は、今期、最後となりますので、特別熱を入れて意見をさせていただければと思いますのでよろ

しくお願い致します。

それでは、本日の議題の内容について説明をしていただきます。

(1) まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」「総合戦略」について【資料2】

(2) 「総合戦略」の進捗状況について【資料3】

(3) 奈井江町の人口動向について【資料4】

【井上主幹説明】

(委員長)

はい。ありがとうございます。今、説明がありましたが、ボリュームがあり、どのように進めたらいいのかわからない感じですが、結局は、奈井江町の人口が減っていく中でこれからどうするかどうしようって何をやったらいいのか。

今、こういうことをやっていて、これをやっていけばこうなっていく。単純に言ったらそう言うことです。人口が減ってきた。人口が減る。それでどうするか。今、こういう施策をやってこういう効果ある。ざっくばらんには、そういうことだと思います。

要するに、いかに奈井江町に人を住ませ、人口を増やすかということなんですが、無理だとしても、右肩下がりで人口を少しでも緩めて、やっていく、やっていかなきゃいけないということで様々な施策をやってきましたということです。それで、これからどうしましょうかっていうことをざっくばらんに議論できれば思っています。

それで、今説明の中にありました進捗管理シートの中で、100%達成しましたよっていうのがありましたよね。これは、実際にやったっていう意味ですよ。皆さんから見てくださいね、この施策の100%達成で本当に、これで効果があったのかざっくばらんにご意見をもらいたいんですね。

今、やっていることが100%達成してますよって言ってますが、実際、本当にそういうことで町全体で変わっているのかな、動いているのかなっていうことになると、正直、私はあまり感じられないところがあるんですね。何かが足りないんじゃないかなと思うんですが、まずは、全員に順番に聞きます。今やっている施策ですね。この施策について、ご意見をざっくばらんに求めたいと思いますので、まず、進捗した内容、実行した内容について、ご意見を頂きたいと思います。どうですか。この進捗をみて。いいとかでもBADでもいいですから。

(委員)

総括でいうとすごく難しいなと思ったんですけども、定住施策に関しては、私は当たっていると思っているんですね。先ほどその若干停滞気味であるという話もありましたけれども、やっぱ振り向いてもらう材料を非常に沢山だしていただいたし、ただ、毎回、申し上げたかもしれないんですけど、町内で最大の雇用者数を抱えている我々に対するアピールが足りないなと思ひまして、、、。

これもっと移動図書で月2回ぐらい来ていただけてますけれども、それと同じくらいのペースで来ていただいても全然問題ないのになと思っています。

要は、そういうことがあるということを知らないというのは、やはり若い世代というのは1番の困ると思いますし、今の人たちは、パンフレットスタンドに置いておいても、もっていったくれない時代なので、何かアプローチが足りないなとは思っているんですね。

ただ、こういうの知ってる？って聞いたら、いや、初めて聞きましたっていう方が非常に多かったんで、そこら辺をどうPRするかですよね。そうすると、掘り起しはできるので、しばらくこれは続けていただけると私としても、管内の人を採用するのに、奈井江町に沢山アパートが新しいのありますよとか、そういうのを武器にしてですね、我々も採用活動出来たらこれお互いにWINWINなのかなは思っているんですけどね。

これは武器としては使えるのではないかと私は感じているところです。

あとは、学校の方もその商業高校さんが非常に頑張っているなど、、、。

我々もこの前採用してますが、何か雰囲気変わってきたなというのを感じているんです、正直申し上げます。なのでやはり、学生数が一定数確保できている。しかもですね、近隣の各校が店定員割れを起こしてきている中、この数字をキープしているのがすごいなど、これはやっぱり売りの一つだと思います。

(委員)

今、委員長の質問に対しての答えだとしたら、目標が1に対して100%って言われてもっていうところはあるんですが、定住のところ見たら本当に戸数の実績が増えているのも見受けられるのでそこはいいなと思いました。はい。以上です。

(太田委員長)

1で100%ってどうなの?ということですよ。他にはどうですか？

(委員)

奈井江の魅力っていうよりも、活気があったらみんな寄ってくるのかなとかって思うんですけど、その活気を作るにしてもその青年部にしても商工会にしても色々やってもらっているので、みんなと和気あいあいとやっていきたいなと思っています。

奈井江商業高校にしても地元からの入学者を増やすために学校側としても他の方たちにしても、町から入学者への補助がもうちょっとあったらいいのかなとかっていう考えも持っているようです。以上です。

(太田委員長)

ありがとうございます。ほかに、、、。

(委員)

委員長が言われたように 100%でないんだったらあれかなと、、、。

私は、一生懸命やってくれてるなと思っています。どこの町村も人口が減ってるんならどうもならないところもあるんで、良かったんでないかと思います。

(太田委員長)

ほかに、、、。

(委員)

私は、定住対策とかそういうものがどこでも行われている 結構、砂川でも新十津川でも。

新十津川は、結構増えてるようなことはおっしゃってますけど、奈井江も増えてはいるんでしょうけど、それなりに何かいっぱいやっている中の魅力的なものを発揮しないといけないんじゃないかと思うんですけど。

それと、子育てとかでものすごく子供が増えてるという町があるんですね。子どもを産んだらどれくらいの補助金みたいなものをだすとか、100 万円出すとかテレビでみたこともあるんですが、よそから言われると奈井江の子供に対しての考え方っていうか、医療費にしても何にしても補助が出てるねっていう。

その辺は、よそから言われるくらいですからいいですが、なかなか人口が増えていかないというのがありますね。若い人がここに住んでくだされば、子供さんも多くなると思うんですが、定住もそうですし、親御さんたちの支援もそうですし、あと子供はこれから産もうとしている人たちにも支援が大切じゃないかと思うんですよ。ある程度大きくなってしまえば離れて行ってしまう。

企業さんは、住電さんと北海道電気さんが大きいからその辺でこう集まっていらっしゃるでしょうけど、本当になかなか交通の便とかスーパーとか生活をするのに便利さが無い。

私たちも奈井江に住んでるけど、ちょっと活きのいいもの食べたいなと思ったらよそへ行って買ってくる。そういう状態になっていると思っているのですが、その辺がやっぱり住みやすい、住みづらいっていうのもあると思うんですけど、長いこと住んでますけど、私にとっては奈井江は札幌も近いし、高速もあるのでとても便利だとも思いますけど、30 分 40 分で行けますよね。本当だったら 1 時間はかかりますけど、入口に入って言ったら 30 分で行っちゃいますので、旭川も 30 分なんですけど、、、。やっぱり便利さを求めている若者が多いということじゃないですか、、、、。

(太田委員長)

ありがとうございます。ほかに、、、。

(委員)

色々な組織、機構の中で役場はもちろんだけど、町の活性化ということはどうやって出していったらいいかと日々悩みながら、取り組まれて住民も同じような思いで多分いらっしゃると思う。色んな策をやってもなかなかうまくいかないとあるいはマイナスになっていく。それは今の状況から見たら当然のことでないかなと思うんですよね。

ただ、そういう中で町村ごとに同じような施策の中で取り合いになっている。ふるさと納税なんかが顕著に分かるんだけど。

ああいう形でエスカレートする、あるいは、何かその甘いものとか色物でひきつける。こんなことをやっていたらどの町も最後は持たなくなって、ガタガタになってしまうんでないかなと、そんな気がしてるんですけども、、、。

やっぱりオーソドックスにしっかり・じっくりやっていくのは、何をやるにしても必要だよな。

人口云々、若い世代云々って言えば、やっぱり教育関係。

それにかかわるいろんな体制とか、町民の意識とか教育ということにどうその町が関わっていい環境と、、、。

例えば、小・中学校・高校にしても教育はいい、素晴らしいなとそういう環境づくりのようなことが1番肝心ではないかなと、、、。

そうすると、そこに住む大人も先輩もみんながやっぱりそういうところに注目あるいは自分もこのままじゃいけないなっていう方向に向いていく。簡単なことでは無いですけども私は若いころから奈井江の教育っていうのは素晴らしいぞって言われてきたっていうことは意識してるんです。

今どういう状況かは分からないけれども奈井江の教育というのは素晴らしいなって私の青年時代も良く耳にした記憶があるんですよね。だから、それはおそらく町民の皆さんがそこに何らかの求心力とかそういうものを持って、やってこられたんでないかなと思うんです。

若い世代を定住させるなれば、自分の子供を考えたとき第一に教育環境はどうかということが第一になると思うので、今までも色々沢山やっているんでどうやればそうなるんだっていうことを、もっと議論してもいいのかな、、、。

平成・昭和後半くらいに学校が荒れて、暴力団とか絡んできたり、そういう中学校でしかたけど、荒れて、手を付けられない状況だけど、それを収めて行ったのは、父兄 PTA が一番中心にあったんだけど、町民全体がこのままだと大変なことになる。それで町を挙げて数年かけてそういう環境をつくって挨拶運動とか、子どもに目を向けてい

ってそこに関わろうというそういうものがありました。

今、コミュニティカフェがみなクルにあったり、私もめったにそういうところに行かなかったんですけども、行けば子供も大人もあるいは先輩老人の方も、色んな論議っていうかね談笑してるっていうのは素晴らしい素材に母体になるなっていう感じはするんです。

あまり悲観することでないと思いますが、国の政策がここまで来ちゃったんだからそれをひっくり返してやるとなったら、国の政策自体をひっくり返していかなきゃならないけれども、現状の中で行ったら、もう減少していくのはどうやったって、、、。

それを減少しながらもやっぱり住んでてよかったなというところに到達していけばいいことだから、、、。雑感です。すいません。

(太田委員長)

素晴らしい意見をありがとうございました。

(委員)

私は、ここに住んで1年半経ちますが、今回、説明してもらった定住という意味で周りを見ると廃墟が多いですね。定住を促進しているんだけど、一方では廃墟が多いっていうのをここは何とかした方がいいのかなという風に思います。

転入施策を補助金なり先ほどいろいろ話がありましたけれども、アンケートを見ると意外に補助のところでのこの町を選んでいるっていうのは少ないなという風なのが出てくる感じを受けました。

先ほどアピールの仕方っていうお話されていたと思うんですけども、この立地条件を考えると、旭川と札幌が近いような話もあったので、もうちょっと札幌や旭川にポスターなりを貼って、アピールしたらどうなのかなっていう風に思います。

また、奈井江町に住んでみて、確かに車を持っていたりすると、立地としては何か買い物しますよっていったときには不便ではない。車を持っているとですね。不便ではないんですけども、じゃあ歩いて買い物行きましょうかっていったときにはやっぱり不便さを感じます。そういうところがメリットデメリットあるなあとは思いますが。

強みをどういう風にアピールしていくかというように注目したらいかがかなと思います。

交通手段があれば、例えば、札幌行きのバスを1便でも2便でも誘致するとか、そういうような活動をすれば車を持っていない高齢者も少し住みやすいっていうか生活しやすい環境なのかなと思いました。

あと農業とかは数字が出てて増えているんでこれは多分成果なんだろうなと思います。

ほんとに若い人を呼び込んでこの立地条件をいかにアピールするかっていうこと

と、これはこれでももちろんそういう効果があっていいんですけれども、そこをもうちょっとピックアップして注目するところと注目しない力を入れないところをもう少し選択してもいいのかなというようなことを思いました。

(委員長)

はい。ありがとうございました。

(委員)

最初の問いかけ、パーセンテージに対しての達成感を感じるかっていうのはちょっとずれを感じるかなっていうのは私自身がこの町に出て行っているのかとか、コミュニティカフェを利用しているのかとかと言っていると、またちょっと違うんですけど、ただ、住んでいて感じることは、ちょっとずれがあるのかなと感じました。

1のしごとづくりに関していうと、結構パーセンテージが高くなっていうのが目立つんですけど、農業づくりを推進していることはしごとづくりになっているっていうのがまあちょっと不思議だなんて思ったんですけど、、、。

気になったのが、特別栽培米の面積を見ていてすごく増えていていいことだと思うんですけど、これちょっとあまり関係ないんですが、町民がどれくらい食べているっていうか、特裁米に対して興味をもって行動しているのかなって、私はちょっと気になっていて、その良さがどれだけの方が分かっているのかなって、、もったいないなと思います。特裁米じゃないのと普通のと値段は1,000円ちょっと違ったりとか高いんですけど、あんまり売れ残ってたなら2割引きとかで買ったりするときもあって、もったいないなと思ってその減農薬になっているとか、健康を推進しているので体にいいですよとか、そういうところを量を食べない高齢の方にもPRするとかと、何かそういうのもったいないなと思っています。

あと、人の流れが無いのと、、、。

町の中ちょっと寂しいねとか確かには思うんですけど、でも定住促進に向けて実際に助成の効果は凄いい出ていると私も見てて思います。

家もどんどん建ってるなと町を歩いていてすごく思いますし、効果を本当に助成金の力は凄いなと見て思います。この先どのくらい続けて持っていけるのかなっていうのは気になってはいるんですけど、、、。自分も利用出来るときはいいかなとか思ったりするんですけど、何年くらいこの先もできることがあるかなっていうのはちょっとお金の事とかも気になります。

定住対策を進めるのに助成金がすごく多く力があると思うんですけども、ふるさと納税は、奈井江にも沢山来ていると思うんですけども、そこで道外の方に奈井江の魅力をPRするっていうのをしてらっしゃるのか、返礼品の中にそういうパンフレットを入れるっていうのがどれくらい進んでいるのかなっていうのが気になりました。すごく

いいタイミングというか機会なので中身のあるというか奈井江の自然環境とか食に興味をもった方の移住があると長く住んでもらえる気がするので、そういうお金の事とか仕事のことだけじゃない方が奈井江に興味をもって来てくれる方が少しずつでも確実に増えるのはいい機会なのでどのくらいあるのかなってというのが気になりました。

でも、まちづくりの方もすごくパーセンテージが高いし、漢検とか英検とかも一つの施策としてすごくいいと思うんですけど、ただパーセンテージの裏に中学校漢検 34.6% 達成ってなってますけど、実際合格したかどうかの裏にそれに取り組むために何か活動が生まれたか、それに対してのこどもたちの自分たちのその勉強する取り組みが増えて仲間づくりができたとか裏にある活動とかもあったりするんじゃないかなと。そういう裏にあるいいものがあるのであれば、パーセンテージ以外のところでまちづくりとかになっているのかなって数字にできない部分だと思うんですけど、そういうのがあったら全体にいい教育に繋がっていくのかなっていう期待が持てるなっていう気がしました。

もう 1 つ。生きがいのあるまちづくりのところで、これもパーセンテージすごく高いし一つひとつ見てもいいことだと思うんですけど、私、凄く感じるのが高齢者の方が中心にみなさんサークル活動がすごく盛んで内容の濃い発表を産業祭とかで凄くされているので、もったいないなってすごくパワーが皆さんあるなっていつも感じるんですけど、その活用がされていないっていうかどう活用するか、また、それだけやれるパワーがある人達が何か別の活動で、自分たちの趣味ではなく、町のためになることで表にでて活動すれば、すごいなと思うんですね。

前に、ちょっと聞いてもったいないなと思ったのが、陶芸センターが確か、もう使えなくなるかと思うんですけど、陶芸サークルの方たちが土は自分たちで買って、施設が町のものなので、そのを使って作ったものを売ってはいけないって言われてやる気が半減したっていうかそういう話を聞いたことがあって。せっかく作ったなら欲しいっていう方に土代だけでももらえる形で提携して買ってもらえると嬉しいと思うんですけど、、、。

それをやってはいけないと止められてると聞いたことがあったので、もし今後もそういう公共の物を使っているんだから販売にはできないよとかいう建前っていうかそういうのあると思うんですけど、何かいい形でこういう場合は販売してもいいよとか、何か枠を設けてあげて、やった成果を喜びの形で変えてあげる何かそういう機会をあげたほうがやる気がさらにじゃあもっとみんな喜んでくれるからもっと作ろうとかいいもの作ろうとかなるんじゃないかなと思って、自由さをちょっとあげたほうがいいんじゃないかなって。そうすると本当に生きがいがあるまちづくりになるんじゃないかなと思います。以上です。

(太田委員長)

はい。ありがとうございました。

(委員)

達成しているところもあると思うんですけども、奈井江町は住みやすい町だなと思っているのでこれからも頑張ってもらいたいと思います。

定住のところでこれも凄く頑張って、助成のところでは120%を超えたりしているんですけど、やっぱりまだ知らない人がいっぱいいて、私、砂川で働いているんですけど若い世代もたくさんいて結婚してどこに住むかって考えた時にやっぱり砂川に住んでいるメリットってなんだろうって考えても対してないよな、みたいな感じで言うんですよね。

その時に、周りのうわさでは奈井江がいいとか、新十津川がいいとか、それぞれ噂は立っているんですけども、やっぱりみんな知るツールがあまりないっていうか分からないっていう人が結構多くて、私は住んでいるからこういうことがあるんだよっていうことを言うと、ああいいですねって言って、2年後3年後にちょっと考えようかなって言うてくれる人もいますよね。

やっぱり若い世代の人にとって助成っていうのは大事だと思うんですけど、お金の関係っていうの大事だと思うんですけど、子どもを産んでどう育てていくかというのは凄く興味があります。利益のあることを一生懸命やってほしいなっていうのは、新十津川なんかは凄く子供の身体能力が高くて、町ですごい盛り上げているからすごく伝わるんですよね。なので勉強もそうですし、体づくりもそうですし、そういった面で盛り上げてほしいなって私の中で思います。

(委員長)

ありがとうございます。これに対する何か回答とかこうだよとか何かありますか？

(事務局)

そうですね、ほんとに尻を叩かれたような思いでいるんですけども、まだまだ情報を知らない人がいるという部分があるようなので、是非、積極的にアピールをしていけるように努力していきたいなと思いますし、是非ご協力もお願いしたいなという風に思います。よろしくお願い致します。

(委員長)

いいですか？人を増やすことはそういうことだと思いますし、学校教育とかそういうのも全てそうだし、働く場所とかそういうのも含めてですね、今は、女性の意見というのは凄く強いと思うんですよね。若い女性。例えば、私が新車を買うにしても奥さんの意見は絶対ですよね。奥さんが反対したらまずダメですよね。

それと同じで、住む場所も旦那が住みたいって言ったら住むかもしれないけど、今で

は女性が住みたいって言ったら住みますよね。

どういう家も旦那さんが口出すのもあるけど、やっぱり最終的には奥さん 女性の意見が通って家が建つっていう傾向ですから、選択肢もやはり女性の意見ってというのは、かなり大きくならないとだめと思う。

子どもの教育にしてもこういったところは、いいところだから移りましようっていうのは結構、女性の意見を聞く傾向があると思います。

お子様を育てるのもやっぱり女性から産まれてきて教育環境を整えてあげなきゃいけないっていうのが当然そういうことだと思います。

もう時間が無いので、あえて今後色んな形で改めて町の在り方、考え方っていうのはいろんな意味で注目されてくるかと思うんですよ。そういう意味でも、皆さんの意見をしっかり反映していただいきたいなという風に思っています。

ですから、そういったところでまだまだまちづくり委員会の役割は大事になってくるような感じもした。最後の最後に何か一つ何か色んなことでこうやったらいいんじゃないかとかそういうことがございましたら承りますが、、、。

(委員)

こっちのカラーの冊子の 3・4 ページ目くらいのところなんですけれども、奈井江の人口ビジョンということで、目標を考えて頑張っていく考えでいいと思うんですよ。

4 ページの一番下に 2060 年の人口を一つの目標として黙ってたら 1,752 人、それを頑張って 2,550 人に増加。これ見た瞬間に正直思うのは頑張ってもこれか、から話は始まりますよね。

最終回だから怒られてもいいと思って言いますけど、僕が役場の職員だったら頑張れないです。1,752 人の町と 2,552 人の町こういう理由で大違いだと、だから、みんな子供や孫のために、奈井江をつないでいこうよって、それが、まずあってからだと思うんですよ。

それが無いと頑張れないですよ。私はそれを強く感じました。以上です。

(委員長)

他にはありませんか？

(委員)

今、指摘があった人口ですね、本当にどうなるか。

ただ、現にもう 1,000 人を切っている村・町もある。だけどそれでも維持はしてるんですよ。だけど、それがどうなんだろうそういう人口で、ずっとって北海道も、ほとんどの市町村で消滅するようないろんなデーター出てたよね。

今年になっても。本当に悲観的なデータしか出てきてないんだけどそんなことでも

やっぱり何とかしてまちづくりっていうのか、生きていかなければならないわけで、やっぱりみんながいろんな意味でコミュニケーションすることではないですか？

すくなくとも、コミュニケーションをしっかりやっていると、、、。

減少はもうどうにもならない状況ですもんねこれね。だから、減少したあともどうもならないんだけど、やっぱりコミュニケーション、つながりをしっかり持つていくというのは絶対じゃないですか？

(委員長)

他ありませんか？

(委員)

最近よく聞くのはもう人口減というのは、もう仕方ないけれども今の話もそうですが、今こういう施策っていうのは、大体、人口減まずいぞまずいぞだけが先行している話ですよ。

だけど、人口がどんどん減っていても幸せな国で言えばオーストリアとかもあるわけですけども、大帝国時代に比べたらぐっと小さくなったけれども国民の満足度であったりだとか、一人当たりの政策は全然下がってないとかそういう国もあるわけですから、ちょっと視点をかえて数字を高く持つことはいいことなんですけれども、その目標が達成できなかったとかだと、テンションさがりますので、それだけじゃなくて、やっぱり住みやすい町というところ満足度を上げていくっていうところにもっと焦点を絞ってもいいのかなと思いました。

(委員)

私も子育てしているので奈井江に住んで子供も奈井江にずっと暮らして行ってほしいなと思うので先ほど皆さんおっしゃられたように満足度っていうのは凄く大事ななっているように思います。

(委員)

人口の話はもちろんそうなんですけど、奈井江っていう町は生産拠点じゃないですけど、奈井江町が発信してみんなが利益を潤うっていうんですかね。ここに住めばこういうことをして利益を潤えるんだというのももう少しアピールをしていったらいいのかなって僕1つ思ったんですけど、出張に行って釧路の近くに白沼ってあるんですけど、あそこの町長さんは教育っていう意味で学校を開放していますという話を聞いて、学校という場を提供してそこに講師を招いて塾を行うみたいな発想もあるというような話を白沼の町長がされていたという話を聞きました。なので、学校が終わって塾に通うことなくその場でそういうような教育をするというような取り組みをされている町もあ

るようなのでそういういいところは是非く真似して活気をつくってほしいなと思います。

(委員)

町を出た子供たちが戻ってこれるような町にしないと、少ない人数の子供がどんどん出て行っちゃうわけですね。そうすると、お年寄りばかりになってしまう。

戻ってこれる魅力的なものが何か必要なのかなと思うんですね。大学とかみんなそちらの方に行ってしまう、就職先だとかが多いんですけど、、、。

お店も無くなってきてるし、そうするとやっぱりそういう人達は、どうにかやっていますけど、うちもだけど、そんなに町民に負担をかけないようにはやってますが、そこはこう、これからそういうところにも手を伸ばしてってくださって住電さんはいっぱい入るかもしれないですけど、従業員をほしくて大手のほうにまわってしまうし、本当に小さい企業ですと、来てくれるのは来て頑張ってくれてますが、それをもうちょっと、、、。

それと障害者の方っていう話ありましたよね。企業でそういう話をあまり知らないんですね。障害者の方でもこういうことはできるから、そういうのは出来ますよってそういう方でもいらっしゃればそういう方をいろんなところで働いて頂けるっていうこともあるんじゃないかと思うんですけど、そういう制度っていうものが分かってない。

知ろうとしてないのかもしれないですけど、でも、わたしもよくミミズクに言ってコーヒー飲んでるんですけど、そこの方でも一生懸命頑張ってますよね。ホントに障害が大きいんですよ。ミミズクの方。ですけど、もっと障害の少ない方でできる方。そういう方のお話を持って来てくださったりすると意外と一人でもお願いしようかって話にはなると思うんですけど。

そういう人達にもお願いしてやっていけたらと思うんですが、、、。

(委員)

最後にありがとうございます。奈井江やっぱり元気っていうのがいるのかなっていうのがやっぱり自分が元気じゃないとだめなのかなとおもいます。で、その元気をみんなに分かち合えればいいのかと思います。はい。

(委員長)

はい。ということで以上で今日の議題を締めさせていただきます。本当に皆さんありがとうございました。

(事務局)

いろんなご意見ありがとうございました。これからも町民委員会は続いていくことに

なろうと思っているところですけども、次期、町民委員会の開催につきましては、年明けくらいになろうかなと思っておりますが、改めて、選定の方を進めていきたいという風に考えております。

本日のように、数々の意見が我々の計画づくり等に十分活かされていくんだらうなという風に思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

(太田委員長)

はい。それじゃ長い間本当にご苦労様でした。

今言ったように皆さんの意見を活かしていくということで私から強く。本当ですね？これがないと委員会の意味がない。皆さんで念を押して聞いておいて下さい。

それでは、私の方っていうか今年は地震もあって忘れない年じゃないかなと思います。が皆さんとこうやって一同に会してですね、意見交換をまたできればいいんですけど、ちょっとなかなか難しいこともあるかもしれませんが、また機会があった場合は、是非今のような感じでですね意見交換をしていただきたいと、私は常に委員長として常日頃思っておりました。

そういった形でですね、本音でお話をしてほしいなという感じで必死にやってきましたが、まだまだ至らないところがありましたけれども、皆さんのご協力が無事、今回の任期を終えることが出来ました。皆さんのご協力本当にありがとうございました。

それでは、第12回まちづくり町民委員会これで終わらせていただきます。ありがとうございました。